

会報

こほく

第48号



レイカディア大学同窓会
湖北支部

目 次

- 令和 7 年度の総括と次年度の選択：馬場支部長 2
- 新会員の歓迎会と寄稿 3
- 新会員の寄稿 4
- 新会員の寄稿 5
- 体育部会の取り組み 6
- 研修部会の取り組み 7
- 地域活動部会の取り組み 8
- 長浜市民病院中庭の整備作業 9
- 長浜城歴史博物館中庭の剪定整備 10

令和七年度の総括と次年度の課題

支部長 馬場 壽夫

同窓会湖北支部会員のみなさん、二月、湖北地方では最も厳しい寒さの季節を迎え、健勝にてお過ごしでしょうか。

さて、湖北支部としての年間活動、「会員作品展示会」「春秋のグラウンドゴルフ大会」「地域探訪研修」「琵琶湖一斉清掃」「4支部親睦グラウンドゴルフ大会」「一日バス研修旅行」「長浜養護学校清掃」「地域活動実績発表」「長浜歴史博物館前庭の剪定」、「会報こほく年二回発行」等の年間計画活動及び今期初めてとなる「長浜市民病院中庭整備活動」が無事終了し、この後「定時総会」を残すだけとなりました。これも会員の皆様の御協力によるところと心より感謝申し上げます。

ところで皆様が既に御存じのところですが、今日平均寿命が八十歳を超え私達が二十歳の頃とは比べものにならないくらい長寿となり又、健康寿命も伸びて元気な熟年が周りに沢山いらつしやいます。これは年齢を重ねても様々な分野で活動されている

方が増えているとも言えます。年齢を重ねても元気に活動できるということは、地域の中で中心的存在として貢献をされたり、或いは趣味を楽しんだりして社会との繋がりの中で積極的に刺激を受けながら日々を送っておられる結果ではないかと思ひます。

私事になりますが、六十八歳で退職した後「肩書社会」の中で肩書もなく、全く一介の無職人としての生活が始まりました。果たしてこの先どの様な人間関係が、どの様な日常が始まるのか大変不安でありました。そんな不安を少しでも解消できればと思ひ、期待を持ってレイカディア大学に入学しました。卒業後はサポートの会、同窓会と入会する中多くの方々に出会うことが出来ました。そして今までの職業関係とは全く違う新たな人間関係と社会との繋がりに出会いました。この新たな繋がりがこそ現在の私に張りや意欲を持って日々を過ごさせて頂く源となっております。そのようなことで私は、レイカディア大学に感謝しております。お聞きするところ、同窓会に入会しても役職に就くことは避けたいという御意見がある

ようですが、敢えて言わせていただくならば、役に就けば就いたで新たな交わりと刺激に出会う機会があるのではないかと思ひます。年代の異なる組織で知る見方の違いと共感、は豊かな経験の積み重ねとなつて、日々の充実を生み出してくれるのではないのでしょうか。健康は心の健康と身体の健康が一体となつてはじめて叶うものと言われています。同窓会活動はその意味において、奉仕作業あり、研修旅行あり、作品展あり、グラウンドゴルフ等ありで、うつつの活動団体ではないでしょうか。同窓会湖北支部は現在、今期入会されました45期14名の方を含め140名の会員が在籍されておりますが、今後会員の皆様の役に立つ組織として発展継続していくためには、会員の皆様の積極的なご参加が不可欠と思ひます、是非とも様々な活動にご参加して頂きますようお願いする次第です。



令和7年度、同窓会湖北支部に十五名の皆さまが入会していただきました。

このたび、レイカディア大学同窓会湖北支部に、新たに十五名の方々が新会員としてご入会をいただきました。

今後の同窓会湖北支部に、新たな息吹を吹き込んでいただき、みなさまと共に支部の活性化を行ない同窓会湖北支部の活動を盛り上げていただきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いたします。

会報発行にあたり、新会員のみなさまから投稿していただきました。卒業学科と氏名を紹介するとともに寄稿文を掲載いたします。なお、寄稿された内容は、原文のまま掲載しています。

同窓会湖北支部 新会員の紹介

瀧西	横田	福田	中川	香取	廣田	粕田	三輪
沢堀	美知	田慶	川幸	取さ	田敏	田昇	輪美
園北	園北	園北	健康	園園	園園	園北	近江
近江	近江	近江	文文	文文	文文	文文	文化
芸化	芸化	芸化	芸化	芸化	芸化	芸化	芸化

川瀨	月ヶ瀨	伊藤	山口	片桐
京子	徹	武夫	高明	弘美
北近江文化	北近江文化	健康づくり	北近江文化	健康づくり

(敬称略)

湖北支部新会員歓迎会を開催

令和七年十月九日、於…おりひめ

令和七年度同窓会湖北支部には、十五名の新会員を迎えました。新しく会員になられた方々の歓迎会を「レストランおりひめ」に於いて開催しました。当日参加された方は、新規加入者が十二名で幹事や役員など十二名の計二十四名の出席者で賑やかに行われました。

馬場支部長の挨拶や中川顧問の乾杯の音頭のあと歓迎の宴が始まりました。宴が盛り上がったところで新しく会員になられた方の自己紹介や役員等の自己紹介が行われました。ひとりの制限時間を一分程と決めましたが、話が盛り上がり制限時間をオーバーする方もおられ、その場にいた参加者のいろいろな人生や今まで歩んでこられた歴史を知ることができました。その後レイカディア大学の話題などで語り合い、和気あいあいとした交流の場となり非常に楽しいひと時を過ごすことができました。最後は奥長相談役の一本締めでお開きとなりました。新会員を迎えて湖北支部の会員は、百二十九名となりました。今後皆さまの事業参加をよろしくお願いたします。



出席者全員で記念撮影と馬場支部長挨拶・中川顧問の乾杯



第45期

園芸学科

廣田 敏夫

四五期、園芸学科を卒業し、レイカディア大学同窓会湖北支部に入会させていただいた廣田敏夫と申します。生まれも育ちも米原市で、仕事の関係で五年間ほど京都市に住まいしたことがありますが、人生の九十八パーセント以上は滋賀県内で活動してきた滋賀大好き人間です。

私は学卒後四七年間仕事に携わってきましたが、杉田玄白の養生訓に刺激を受け、何か新しいことに挑戦したいと思い、古希を迎える前にレイカディア大学に入學しました。在籍中はとても有意義で充実した時間を過ごすことが出来、あつといつまでの二年間でした。

長い間組織におりますと、どいつしても価値観が固定化し型枠から抜け出せずにいたのですが、青春時代の学生と同じように振舞えたことが最高でした。また、レイ大から紹介いただいた料理講座、バルーンアート講座、仏像彫刻講座等々、とても楽しく受講させていただきました。在学中からのボランティア活動も多岐にわたり、各々の活動の中で知人の輪が広がり、高年齢ではありますすが人としての輪を広げることができたことをありがたく思っております。

さて、レイ大の同窓会に入会させていただきましたが、この年になって新会員と言つ不思議な感覚になります。しかし、同窓会の活動状況を鑑みて、今も在校生という気持ちで新しい学びや地域活動に努めていきたいと思います。今後ともどつぞよろしくお願いたします。

第45期

園芸学科

香取

さゆり

レイカディア大学の課題学習では、訪問した所の写真や感想を出し合っていました。それまでは、ただスマホの中にデータが残っていくだけでした。卒業後、十月十四日から十五日に横須賀美術館と神代植物公園を訪れました。この機に報告させていただきます。

環境全体が美術館をコンセプトに設計された横須賀美術館。以前から行きたい場所のひとつでした。建築家・山本理顕の代表作のひとつでもある横須賀美術館を会場として、彼の設計思想を総合的に紹介される展覧会。また、美術館は施設の改修のため長期休館に入っています。この機会を逃さないの思いもありました。また、併せて企画展「トランスナバ

ラからやってきたー世界の絵本パレード」も魅力に溢れた企画でした。たまたま、芝生広場では、自然と奏でるアルプホルンの演奏と出会いました。神代植物公園、武蔵野の面影が残る園内では、約四千八百種類、十万本の株の樹木が植えられ、季節折々で様々な花が楽しめます。「秋のバラフェスタ」のシーズンでもあり、ボランティアによるガイドツアーにも参加できるこの日に訪れました。

「世界バラ会連合優秀庭園賞」も受賞した園ですが、今年には猛暑のため開花が遅れているとのことでした。バラの香を嗅ぎながら五十年以上の歴史を持つバラ園を案内していただきました。ツアー後、もう一度バラ園を回り各所を写真に撮りました。園内のレストランでは蜂蜜入りのカレーライスをいただきましたが、たまたま、隣席の方が深大寺養蜂園の養蜂家で蜂蜜のお話を伺うことが出来ました。

第一回東京パークガーデンアワードの開催場所でもあった神代植物公園。(今年は、砧公園が会場となっています)正門へのエントランスの宿根草たちもステキでした。時間の関係で、植物多様性センターへ立ち寄れなかったことは心残りです。出会いの多き旅のひとつ時でした。

第45期

北近江学科

川瀬

京子

レイカディア大学に入学してから大変多くの事を学ばせていただきました。二年間の間には、数多く電車に乗る機会ありましたが、私は、たいがいは車で移動していましたので、電車は大変落ち着かなく不安で苦手意識がありました。まず乗るとき、「これでいいのかな?」不安でソワソワの連続でした。

少し慣れ、自信がついた頃にこんなことがありました。

安土駅に集合という事で、連絡してもらっている時間より早めの電車に飛び乗りました。「さあ、もつすべ着くぞ」そう思ったとき「次は野洲」とアナウンスが流れます。

「え、安土を通り過ぎた?」私はパニックとなり、どつと冷汗が出たことを覚えております。かなり時間をかけて安土駅に着きましたが誰もいません。車一台通らず、歩いている人もいませんし、タクシーもない。泣きたい気持ちで神様をお願いをしました。その時は何とかみんなと合流出来ました。安土には快速は止まらないという事を勉強しました。

もっと失敗談はありますが、一人でどこでも行けるように頑張ろうと思っています。乗り遅れても次があるし遠回りしてもそれなりの楽しみがあると信じて。見たことない景色、出逢いを楽しみみたいです。

そつつかしい私ですが、湖北支部に入会させてもらって、またいろいろな体験をして人生楽しく泣き笑いをしたいです。どうぞよろしくお願いたします。

第45期

北近江学科

福田

慶子

レイカディア大学での学びが縁で、このたび同窓会湖北支部に入会させていただきました。北近江文化学科在学中は座学や郊外学習などで北近江の歴史や文化伝統を学び、あらためて湖北への理解と愛着を深めることができました。そして授業の一環としてのボ

ボランティア活動においてさまざまな人たちと出会い、小さな行動でも人の役に立つということを知りました。これからも同窓会の活動を通じてボランティアやいろんな行事に参加して交流を深めていきたいと思っています。どうぞ皆様よろしくお祈りします。

第45期 園芸学科 寫田 晃

第四十五期園芸学科卒業の寫田晃です。この度、同窓会湖北支部に入会させていただきました。どうぞよろしくお祈りいたします。レイカディア大学に入学しようと思ったのは、今のつながりが限られた地域の方々と、会社関係という以前の歩みの人のみという寂しいものだったという事がありました。新しい人との持ちたいと希望をもつて入学すると、期待以上の事はかりで楽しい二年間でした。

園芸学科で学ぶ野菜作りや剪定作業、苔玉、リース作りなどを通して新しい仲間との学習は、ただ単に学ぶという事以上に意義あるものでした。

一コーススポーツ大会や大学祭など学科単位の活動を通して強い関係が築けたと思います。幸い四十五期生は、学科を超えての親睦会やクラブ活動もありましたので他学科の方々と交流もできました。卒業後もこのレイカディア大学で出会った仲間との関係は続いていきますし、また同窓会に入会して新しい方々との関係ができることを楽しみにしています。

第45期 健康づくり学科 伊藤 武夫

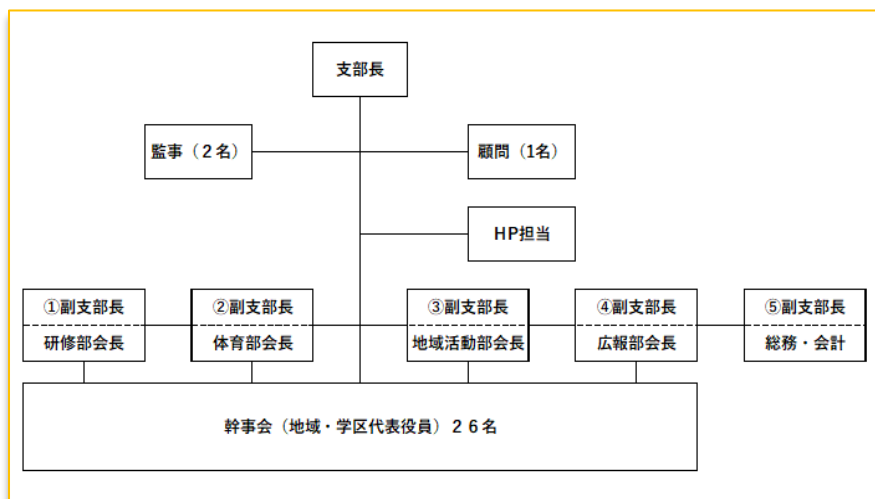
私は定年退職後も常勤で仕事をしていました。その四年目に知人からレイカディア大学の講座や行事等の話を聞き、新たな出会いや学びが今後の生きがいに繋がることを期待して入学しました。入学後は、学科長を拝命し、年齢の異なる方々をリードしながら「明るく・楽しく・元氣よく」を合言葉にみんなで協力し合って充実した時間を過ごすことが出来ました。また、基礎・選択講座を通じて幅広い地意識を習得することが出来、さらに講座以外の学校行事やボランティア活動、課題学習、クラス独自の交流会等、諸活動を楽しみながら人間力の向上につなげることが出来ました。この二年間の学びをサポートの会や同窓会等で活かしていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお祈りいたします。

第45期 北近江文化学科 横田 美知男

私としてのレイカディア大学

再雇用の任期満了になる直前に母が急死し、仕事もない独居老人に突然なつてしまいました。当初は葬儀の事などで、気が紛れて時が過ぎてしまいました。一周忌も過ぎると丸一日何もせず、ぼくっとしていた自分がいました。「これはいかに何か、何かがないと...無駄に終わってしまう。」と思った矢先、市の広報にレイカディア大学の学生募集が載っていたのです。「ここに何かヒントがあるかもしれない」と思いました。シルバー人材センターの剪定講習にも参加したこともありますが、私はは向いていませんでしたので

レイカディア大学同窓会湖北支部組織図



園芸以外の北近江が健康か、体験受講もして悩んだ挙句、六十代のうちなら北近江文化かなーと思い、歴史は好きではないのですが北近江文化学科にしたのです。今では、ボランティアガイドもするようになりました。

私の第二の人生を導いてくれたレイカディア大学と言っても過言ではありません。是非、ご入学をお勧めします。

びわ湖岸の清掃活動を実施する
「道の駅「近江母の郷」の湖岸一帯」

恒例の琵琶湖岸清掃活動が、同窓会本部事業として、レイカディアの日の九月二十二日に開催されました。

この日は快晴に恵まれ、久しぶりの涼しい朝でした。湖北支部では「24名」の参加者があり、黄色いビブスを身に着けて作業を行いました。作業は、一時間程度でしたが、熱中症にも注意しながら集中して取り組みました。

湖岸清掃は、「道の駅近江母の郷」の西側の湖岸を南に進みました。湖岸には思いのほかゴミが少ないと思いましたが、丁寧な作業を行い、分別をしながらの回収でした。それでも可燃ごみが7袋で、不燃ごみが3袋ほど集まり、琵琶湖岸は見違えるような美しさになりました。湖岸清掃に参加していただいた多くの同窓生のみなさま、ありがとうございました。



令和 7 年度、湖北支部「体育部会」の取組み

秋季グラウンドゴルフ大会を実施

レイカディア大学同窓会湖北支部の「秋季グラウンドゴルフ大会」が、十月十七日に県民共済ドーム長浜において開催されました。当日の参加者三十名は、3ゲーム24ホール競技に七つのグループに分かれて試合を行いました。

馬場支部長の開会挨拶の後、前回の成績優秀者によるトロフィーの返還があり、小川体育部長の開始合図により熱戦がスタート、各ホールでは、一打一打ごとに歓声が上ががり、熱戦が繰り広げられました。和気あいあいと過ごすことが出来ました。



同窓会四支部親善グラウンドゴルフ大会を実施

レイカディア大学同窓会4支部親善グラウンドゴルフ大会が、十月三十一日に近江八幡支部の主催で日野川グラウンドゴルフ場で行われました。天気予報では、午後から雨の予報で開催が危ぶまれましたが、大した雨も降らず無事に実施されました。湖北支部からは、馬場支部長、小川体育部長をはじめ14名が参加しました。同窓会4支部（湖北・湖東・中部・近江八幡）からの参加は、合計で83名が参加者しました。



日野川グラウンドゴルフ場のコースは、バンカーあり、山ありの起伏に富んだコースで、1ラウンド18ホールのストロークプレーで行われました。長浜のドームに慣れている湖北支部の会員には難解なコースで、残念ながら、4支部のみなさんとの親睦も深めることが出来ませんでした。世話していただいた近江八幡支部の皆様改めてお

令和7年度、湖北支部「研修部会」の取組み

研修旅行「かがみがはら航空宇宙博物館と小牧山城跡探訪」

今年度、恒例の日帰り研修旅行が快晴に恵まれた十一月十日に開催されました。今年の研修先は、「岐阜かがみがはら航空宇宙博物館と小牧山城跡」の探訪です。帰りには、お菓子「しるこサンド」で有名な小牧の松永製菓直営店で立ち寄り見学する行程でした。雨の心配もなく、秋晴れのなか、参加者三十一名は、大型バスに乗り込みました。

午前中の行程、かがみがはら航空宇宙博物館では専門のガイドさんによる詳しい説明のもと見物することができました。参加者は二班に分かれて、航空機エリアに約三十分、宇宙エリアに十五分ほど、歩きながらボランティアガイドの説明を聞きました。航空機や宇宙船の実物は、見るものを圧倒させ、充実した時間を過ごすことが出来ました。

楽しみの昼食は、和食処琴川で和食を中心に舌つづみを打ちました。午後は、小牧山城跡の見学でした。山頂の天守閣を復元した小牧山歴史館を目指す「信長コース」と小牧山城史跡情報館「れきしるこまき」で映像での石垣や土塁などの遺構から織田信長や徳川家康の戦略



じ取れる「家康コース」に分かれての見学でした。両コースともボランティアガイドさんによる詳しく楽しい解説が聞けました。最先端の宇宙船と戦国歴史の研修を楽しめます。



信長が初めて築いた城～永禄三年（1560年）桶狭間で今川義元を討ったあと、家康と同盟、美濃攻略を対象とし、美濃が一望できる小牧山に城を築いた。史跡小牧山は、小牧市の中央にある独立した山で、史跡に指定されている。その後、小牧・長久手の戦いで織田信雄、徳川家康連合軍が整備し、羽柴秀吉軍と対峙した。今では、石垣や土塁、堀など戦国時代の遺構を見ることが出来る。見晴らしも良く信長、家康の戦略を感じます。



令和7年度、湖北支部「地域活動部会」の取組み

第十七回・地域活動事例発表会を開催

今年度、第十七回地域活動事例発表会は、十一月十九日に草津キャンパス大教室で行われました。レイカディア大学同窓会9支部において取組んだ事例を発表テーマとして、さまざまな角度から検証し二十分の持ち時間の中で実践報告をされました。発表された内容は、いずれもボランティア活動を中心に様々な取組んだ内容をテーマとして紹介されました。

湖北支部からの参加者は、役員を含めて一〇名でした。発表者は、第四十期園芸学科を卒業された、小川典久さんと、発表のテーマは『発酵食品に魅せられて』でした。

発表要旨は「営農組合で米つくりに励むなか滋賀県に受け継がれてきた発酵食品の製造に取り組んでいます。その一つは「鮎ずし」で独自の漬け方と効率性の高い保存方法をシステム化した結果、参加する地域の仲間も増え発酵文化の伝承に関わっている喜びを感じています。

二つ目は、「酒造り」です。自分で酒米を育て酒蔵と交渉し醸造をして頂いています。仕込みには仲間も泊まり込みで参加します。酒の銘柄は米原ゆかりの『息長(オキナガ)』と銘々しました。

発表要旨にあるとおり、小川さんは、発酵食品である鮎ずしや酒造りを通しての地域の仲間づくりの取り組みを発表されましたが、その取り組みを発展させて、仲間内で楽しむだけでなく、例えば、桜のライトアップやそば作り教室を開催



し、地域のフェスティバル開催などにもつながっていき、地域活性化の素晴らしい取り組みでした。意識の持ち方や行動で地域の姿が変わっていくこの取り組みは、地域活動事例発表会にふさわしい内容であったと思います。各支部も素晴らしい発表で、熱くその取組みを語られていました。



長浜養護学校支援作業を実施

長浜養護学校支援剪定作業が、例年通り実施されました。この日、十一月十四日は、風もなく小春日和の良い天気のもと実施することが出来ました。参加者は園芸学科の卒業生だけでなく、全ての学科から16名の参加がありました。

今年の作業は、校門前と前庭のサツキの剪定を重点的に行いました。剪定された大量の枝や葉は細かく裁断され、ビニール袋などに袋詰めされ作業は終わりました。剪定後の校門前や前庭は見違えるようにさっぱりしました。



ノーベル賞受賞、坂口志文氏の母、坂口淑子さんが「会報こほく十五周年記念誌」へ寄稿文を寄せられたので掲載します。

みなさんがすでに「承知のとおり、坂口志文氏は、長年の自己免疫疾患の研究で「制御性T細胞」を発見したことで「ノーベル賞」を受賞されましたが、お母さんがレイカディア大学第十二期生陶芸学科を卒業した後、亡くなられるまで同窓会湖北支部会員だったことを「存じでしうか?」百歳を超えて亡くなられた坂口淑子さんの同窓会の足跡を探したところ、過去に発行された会報の中から坂口淑子さんが寄稿した文章を見つけましたので掲載します。

『陶芸の楽しみ』

第十一期陶芸学科 坂口 淑子

老大有卒業させていただき、早くも五年の歳月が過ぎました。引き続き碧水荘の陶芸教室で月一回学んでおります。とても明るい先生のご指導のもと多くの陶友達とみなで和気あいあいとい、楽しく数時間を作陶に専念し帰途に着くときの充実感。遠方からの往復も少しも苦にならず、次の研修日からは待ち遠しい有様です。

また、地域の老人クラブ陶芸部に加入し、「陶芸は指先を使うのでボケ防止になる」などと冗談を言いながら楽しい時間を過ごしてあります。先輩の素晴らしい作品に感動し、自分の未熟さに情けない思いをすることが一歩ずつの前進につながると思ひ、自分なりの努力を続けております。

拙ないものでも自分の手作りの味わいは格別、壺に花を生け、茶碗で抹茶を点て、皿や鉢に料理を盛り、器のゆがみも世界にただ一つのものに愛着が湧き日々の暮らしが何となく心豊かなものとなりました。

書斎を過ぎても健康で、同じ趣味を持つ多くの友と楽しみながら、古いの道を歩む幸せを感じ、やっと咲き始めた湖北の桜に心を和ませつつ毎日を送っています。

会報こほく十五周年記念誌より

(平成八年五月一日発行)

長浜城歴史博物館前庭の剪定作業を実施



時折湖北独特の冬の冷たい氷雨が降るなか、長浜城歴史博物館前広場周辺の垣根の剪定作業を実施しました。同窓会員や友の会会員が参加し、前庭の垣根は樹木の高さを揃えるため、トリマー、剪定はさみ、ノギリ、両手はさみ等を使いながら行い、一時間ほどの作業でしたが、無事に終わるこ

とができました。剪定後の玄関前庭は見違えるようにさっぱりしました。館長さんには、これで気持ちよくなる新しい年を迎えられると言っていただけでした。来年は豊臣兄弟のテレビ放送が始まります。長浜城歴史博物館を訪れる観光客の方も増えると思われすが、気持ちよく迎えることに少しでも貢献できたことをうれしく思います。

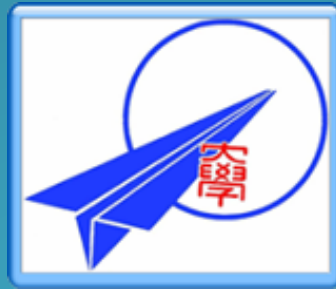
編集後記

令和八年二月一日発行の「会報こほく第四十八号」をお届けいたします。

この誌面は、湖北支部が取り組んだ内容について掲載しました。馬場支部長の総括と課題を、体育部会では「秋季ゴルフ大会」や「四支部親善グラウンドゴルフ大会」を、研修部会の日帰り研修旅行「かかみはら航空宇宙博物館と小牧山城探訪」を、地域活動部会の「長浜養護学校及び長浜城歴史博物館での奉仕作業」地域活動部会の「地域事例活動発表会」の内容などたくさんの方の行事掲載いたしました。

「会報こほく」 第四十八号

発行日 令和八年二月一日
 発行元 滋賀県レイカディア大学
 発行責任者 馬場 壽夫
 編集責任者 北村 佳治
 発行所 〒5209-0142
 長浜市田町24-1



レイカディア大学同窓会
湖北支部